

コスト削減と環境負荷の低減を実現

バッテリーの使い捨ては終わり!?

ビルの停電対策

先般の震災により非常時の無停電電源装置(UPS)が注目を集めた。今後、ビルの防災対策という観点はもちろんのこと、テナント満足度を高める取り組みとして、導入が増えることが考えられる。ただ、いざという時に利用できなくては宝の持ち腐れになってしまう。そうならないためには日頃のメンテナンスが重要だといえるだろう。今回は、無停電電源装置などの電力源となるバッテリーに関して取り上げる。

バッテリーの廃棄から再利用へのメリットは

大量販売、大量消費の時代が終った現在、資源を有効に活用するリユース、リユース、リサイクルの3Rを実現した循環型社会が時代の潮流となっている。

ただ、バッテリーの場合、平成20年度の売上総額が約8460億円のうち2000億円弱が再生可能な鉛バッテリーであるのにも関わらず、そのほとんどが再流通することなく捨てられており、その数は4500万個とされている。

事業者にとってコスト削減が業績の向上を担うことはもちろんのこと、CSR(社会的責任)の観点からも環境に優しい事業活動が求められていく。しかし、バッテリー技術の専門会社であるリプラス(石川県金沢市)が平成21年に調べた状況によると、使用済みバッテリーをリサイクルでき

なかったと回答するなど、社会的に認知されていないことが、バッテリーの再利用が進まない要因といえるだろう。

の削減が業績の向上を担うことはもちろんのこと、CSR(社会的責任)の観点からも環境に優しい事業活動が求められていく。しかし、バッテリー技術の専門会社であるリプラス(石川県金沢市)が平成21年に調べた状況によると、使用済みバッテリーをリサイクルでき

もあり、寿命が過ぎても使われ続けているケースがあると知ら



地震の備えが急務に

避難通路の確保や事業継続計画の観点からも重要

が、ビルに入居するテナリーの交換やメンテナンスの観点から、リユースバッテリーも、メリットが高くなっている。

また、バッテリーは処分時に廃棄物となるため、適正な処理が行われないと、オーナーの責任が問われる。ただ、バッテリーの買い取りサービスを受けられることにより、所有権が業者に移譲し、オーナーのコンプライアンスが保たれるという点から

契約期間中のバッテリーの能力を保証する



営業部 上田 俊秀氏

浜田

当社は廃棄物の資源化を目指し、ゼロエミッションリサイクル活動を積極的に取り組んでおり、リユースバッテリーを提案する「バックアップバッテリーエコサービス」などを展開しています。バックアップバッテリーは工場、ビル、大型スーパー、病院、大学などの非常時の直流電源装置や無停電電源装置の起電力したものとみ出し、源および電力源として、幅広い場所に設置されております。しかし、期待寿命を過ぎても交換されずに使われ続けており、非常に危険な状態です。バックアップバッテリーが期待寿命を迎えた場合、当社サービスの利用者は、当社がストックする密閉式タイプのリユースバッテリーへの入れ替えを推奨しております。当社のリユースバッテリーは、JIS規格

非常時の直流電源装置や無停電電源装置の起電力したものとみ出し、源および電力源として、幅広い場所に設置されております。しかし、期待寿命を過ぎても交換されずに使われ続けており、非常に危険な状態です。バックアップバッテリーが期待寿命を迎えた場合、当社サービスの利用者は、当社がストックする密閉式タイプのリユースバッテリーへの入れ替えを推奨しております。当社のリユースバッテリーは、JIS規格